○陸前高田市の中学生からいただいたメッセージ

（米崎中学校より）

（５）平成 24 年度

ア　招待実績

米崎中学校	26 名(1 年生 20 名、教員 6 名)
小友中学校	28 名(1 年生 21 名、教員 7 名)
第一中学校	86 名(2 年生 74 名、教員 12 名)
合計 3 校	140 名(生徒 115 名、教員 25 名)

イ　プロジェクトの推進体制

（ア）実行委員会名簿

職 名	所属団体・役職	氏 名
委員長	名古屋市総務局長	三宅 勝
副委員長	東海岩手県人会長	石井 弘子
副委員長	名古屋市教育委員会事務局教育次長	早瀬 弘親
副委員長	名古屋市総務局企画調整監	杉﨑　正美
委　員	岩手県名古屋事務所長	岩渕 謙悦
委　員	四季株式会社名古屋公演本部長	小嶋　俊介
委　員	TJG(東北地方太平洋沖地震復興支援学生団体)311 代表	熊澤　徳人
委　員	株式会社中日ドラゴンズファンサービス部長	寺西　秀人
委　員	公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー専務理事	長谷川 二三夫
委　員	株式会社ナゴヤキャッスル顧客開発本部次長	岡田 一成
委　員	名古屋空港ビルディング株式会社常務取締役	近藤　淑徳
委　員	公立大学法人名古屋市立大学病院副病院長・看護部長	平岡　翠
委　員	財団法人名古屋みなと振興財団専務理事	星野 正典
委　員	株式会社フジドリームエアラインズ取締役副社長	内山　拓郎
委　員	名鉄観光サービス株式会社常務取締役中部営業本部長	小門　豊
委　員	名古屋市教育委員会事務局学校教育部長	西淵　茂男
委　員	名古屋市科学館副館長	清水 正吉
委　員	名古屋城総合事務所長	佐藤　正幸
委　員	東山総合公園長	前田　健
監　事	名古屋市会計室次長	柵木　厚
監　事	名古屋市総務局総務課長	河野 和彦

（イ）平成 24 年度　実行委員会の開催経過

	日付	場所
第1回実行委員会	平成 24 年 7 月 6 日	名古屋市役所　正庁
第2回実行委員会	平成 24 年 12 月 18 日	名古屋市役所　正庁
第3回実行委員会	平成 25 年 2 月 20 日	名古屋市公館　小会議室

ウ　平成 24 年度招待内容

（ア）米崎中学校（1 年生）

・実施期間　平成 24 年 7 月 24 日（火）～26 日（木）

・主な行程＜1 日目＞名古屋城での南陽中学校との交流、
ノリタケの森・産業技術記念館の見学
東海岩手県人会・大学生ボランティアとの交流会、夜景見学
＜2 日目＞就労体験（4 箇所）、プロ野球観戦
＜3 日目＞科学館及び市長との交流

初日のお昼ごはんに“なごやめし”
ボリューム満点のみそかつに舌鼓

名古屋城で南陽中学校と交流
すぐに仲良くなりました

消防航空隊での就労体験
気合を入れてビシッと敬礼

夢にまで見たプロ野球のマウンドで始球式
大声援を受け全力投球！

科学館にある世界一のプラネタリウム
その迫力と最新鋭の映像にビックリ

あっという間の 2 泊 3 日
生徒の皆さんから市民へのメッセージ

（イ）小友中学校（1 年生）

・実施期間　平成 24 年 9 月 26 日（水）～28 日（金）

・主な行程＜1 日目＞ノリタケの森・産業技術記念館の見学、
名古屋城での丸の内中学校との交流
東海岩手県人会・大学生ボランティアとの交流会、夜景見学
＜2 日目＞就労体験（9 箇所）、プロ野球観戦
＜3 日目＞科学館及び市長との交流

名古屋城で丸の内中学校と交流
仲良く元気にエイ・エイ・オー！

お皿への絵付け体験
オリジナルの絵皿は一生の宝物

自動織機に興味深々
産業技術の歴史を学びました

岩手県人会・大学生との交流会
クイズ大会では大盛り上がり

調理学校での就労体験
プロの指導で昼食づくり

あっという間の 2 泊 3 日
生徒の皆さんから市民へのメッセージ

（ウ）第一中学校（2 年生）

・実施期間　平成 25 年 1 月 23 日（水）～25 日（金）

・主な行程＜1 日目＞就労体験事前学習

（菊井中学校、浄心中学校、天神山中学校）

科学館見学及び市長との交流

東海岩手県人会・大学生ボランティアとの交流会、夜景見学

＜2 日目＞就労体験（32 箇所）、劇団四季観劇

＜3 日目＞マナー学習

航空機で名古屋に到着
3 日間思いっきり楽しむぞ！

菊井中学校との交流
とても温かく迎えられました

科学館での河村たかし市長との記念撮影
世界一のプラネタリウムにびっくり

キャッスルホテルでの就労体験
名古屋市の中学生と連携して！

名古屋市立大学病院での就労体験
やさしい看護師に憧れます

施設見学先へのお礼の挨拶
第一中学校からのメッセージを添えて

（6）残余金の取扱いについて

当プロジェクトの残預金（3,048,683 円）については、平成 24 年 8 月 31 日に名古屋市立大学看護学部に陸前高田市枠（後述「4　陸前高田市への医療支援」参照）が新たに設置されたことに伴い、陸前高田市枠の学生を支援することに使途を限定し、全額、名古屋市立大学振興基金へ寄附しました。

（7）名古屋市の中学生による陸前高田市への訪問

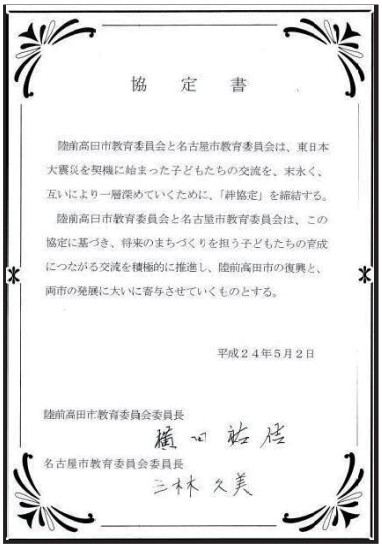
平成 24 年 5 月 2 日に名古屋市教育委員会と陸前高田市教育委員会が「絆協定」を締結し、本市中学生も陸前高田市を訪問するなど、双方向の子ども達の交流を開始した。

・実施期間　平成 24 年 8 月 26 日（日）～28 日（火）
・訪問者数　27 名（交流団生徒 20 名、教員等 7 名）
・主な行程　＜1 日目＞平泉歓迎会、世界遺産平泉の見学
　　＜2 日目＞被災校舎等の視察、
　　小友・米崎中学校生徒との交流会、
　　仮設住宅でのボランティア活動
　　＜3 日目＞産業体験（牡蠣養殖）、
　　陸前高田市長・教育長との懇談会
　　名古屋市派遣職員への激励

被災した陸前高田市役所
被災地の現状に言葉を失いました

陸前高田市の中学生との交流会
陸前高田の仲間に元気をもらいました

牡蠣の養殖いかだの体験
全てが初体験で勉強になりました



協　定　書

陸前高田市教育委員会と名古屋市教育委員会は、東日本大震災を契機に結まった子どもたちの交流を、末永く、互いにより一層深めていくために、「絆協定」を締結する。

陸前高田市教育委員会と名古屋市教育委員会は、この協定に基づき、将来のまちづくりを担う子どもたちの育成につながる交流を積極的に推進し、陸前高田市の復興と、両市の発展に大いに寄与させていくものとする。

平成２４年５月２日

陸前高田市教育委員会委員長
横田 哲治
名古屋市教育委員会委員長
三林 久美

絆協定書

3　陸前高田市への産業支援

（1）概要

本市では、現地の事業所開設や雇用創出などの支援が可能な企業からの情報の受付や取りまとめ、現地ニーズとのマッチングを行うことを目的とした「陸前高田産業支援デスク」を市民経済局に設置し、陸前高田市の産業復興を支援することとした。

これまで、陸前高田市や本市で開催される各種イベントへの出展等を行ったほか、「陸前高田産業支援デスク」の活動を中心に、陸前高田市の企業と本市企業との商取引マッチングを図るなどの販路開拓支援を行った。

（2）平成 23 年度の実績

ア　支援の申出状況（平成 24 年 3 月 31 日現在 51 社 56 件）

区　　分	主 な 業 種・提 供 内 容
求　　人	設計、福祉・医療サービス、警備・ビル管理、人材派遣　など
各種請負	土木・建設工事業、電気工事業、水道工事業、ディスプレイ業、リース業　など
そ の 他	飲食業、小売業、自動車修理・販売業、工具の提供　など

（注）「陸前高田産業支援デスク」は、平成 23 年 5 月 16 日設置

イ　交流意見交換会の開催

・日　時：平成 23 年 7 月 22 日（金）
・参加者：陸前高田市及び本市の企業・団体、両市長、行政関係者等
・内　容：現地視察、寄附にかかる目録の贈呈、相互意見交換など

ウ　マッチング事例

・市内ホテルから「しいたけ」を受注（平成 24 年 3 月）
・現地産品の販売支援
　市内卸、小売、飲食業者との商談仲介（一部取引開始）
・市内事業者の現地進出支援
　現地で介護事業立ち上げを目指す事業者と現地自治体との連絡調整
・市内団体等からの寄附（現地の希望に沿うよう調整）
　保育園で使用する文具、イベントで使用する提灯など

産業支援交流意見交換会の様子

（３）平成 24 年度の実績

ア　イベントへの出展等

（ア）　陸前高田市での「平成24年陸前高田市産業まつり」への出展

現地商工業者等が主体となって開催する「陸前高田市産業まつり」に名古屋市ブースを出展し、なごやめしの提供やステージイベントへの参加など、会場の盛り上げに協力

日　程　11月 4日（日）
場　所　陸前高田市・高田一中仮設グラウンド
内　容　なごやめしの提供やステージイベントへの参加などにより、会場の盛り上げに協力

（イ）　本市での開催イベントへの出展

a　岩手・陸前高田うんめぇもんフェアｉｎナゴヤ
日　程　5月中の土日祝日
場　所　アスナル金山
内　容　陸前高田産品の販売に協力、チラシ・復興グッズ等配布によるＰＲ

b　第15回　国際福祉健康産業展～ウェルフェア2012～
日　程　5月25日（金）～27日（日）
場　所　名古屋市国際展示場
内　容　陸前高田産業復興状況等のパネル展示

c　有松絞りまつり
日　程　6月 2日（土）～ 3日（日）
場　所　緑区有松地区
内　容　パネル展示やチラシ・復興グッズの配布による陸前高田市のＰＲ

d　名古屋まつり
日　程　10月20日（土）～21日（日）
場　所　オアシス21
内　容　陸前高田産業支援デスク出展ブースで陸前高田産品の販売及びＰＲ

e　メッセナゴヤ2012
日　程：11月 7日（水）～10日（土）
場　所：名古屋市国際展示場
内　容：被災地域の中小企業による製品・技術の展示及び特産品の販売

f　旅まつり名古屋2013
日　程　3月16日（土）～17日（日）
場　所　久屋大通公園
内　容　陸前高田産業支援デスク出展ブースで陸前高田産品の販売及びＰＲ

イ　販路開拓支援における商談会の開催

「店舗繁盛応援団×陸前高田復興支援イベント～結ぼう食の絆、築こう友情のかけ橋～」

日　時　8月29日（水）

場　所　ナディアパーク 6階　第 3セミナールーム

内　容　陸前高田産品を扱う企業と名古屋の飲食事業者との取引マッチングを図る商談会を実施。本市は陸前高田企業のコーディネート等による開催協力

実　績　陸前高田側企業 3社（ 3名）、名古屋側18社（29名）が参加
取引マッチング実績 5件

ウ　販路開拓支援におけるイベントの開催

「陸前高田産品×調理専門学校　メニュー開発コンテスト」

日　時　平成25年 1月22日（火）

場　所　名古屋コミュニケーションアート専門学校　第 4校舎（中区栄2-15-43）

内　容　同校の生徒が授業で取り組んだ、陸前高田産品（しいたけ・きくらげ）を使用したメニュー開発の成果について、飲食事業者を審査員として招きコンテストを実施。優秀メニューは審査員の経営する店舗で実際に提供。本市は広報など開催協力

実　績　同校生徒23名、名古屋の飲食事業者 3社が参加
取引マッチング実績 3件

エ　その他の交流イベント

（ア）「食のビジネス交流イン名古屋」

日　程　8月30日（木）

場　所　ウェスティンナゴヤキャッスル

内　容　岩手県内企業と愛知・名古屋の企業との交流・商談会への開催協力

実　績　岩手県企業20社（31名）
愛知・名古屋企業30社（49名）
参加者計　50社（90名）

（イ）「岩手食材の夕べ交流会」

日　程　8月30日（木）

場　所　ウェスティンナゴヤキャッスル

内　容　「食」をテーマにした岩手県産品等のＰＲ・交流会への開催協力

実　績　参加者　200名（河村市長、入倉副市長出席）

オ　取引マッチング実績（10 件）

■陸前高田産業支援デスク登録企業を介したマッチング実績

（ア）　大手食品卸会社と陸前高田産品の商社が取引開始　　（平成 24 年 5 月）

（イ）　当地域の小売店に「マスカットサイダー」を納入　　（平成 24 年 6 月）

■販路開拓支援に係る商談会によるマッチング実績　　（平成 24 年 8 月）

（ウ）　弁当製造販売会社から「わかめ」を受注

（エ）　飲食店から「きくらげ」を受注

（オ）　居酒屋チェーンから「しいたけ」を受注

（カ）　居酒屋チェーンから陸前高田産品（味噌、しいたけ、こんぶ等）を受注

（キ）　調理師専門学校で、陸前高田産品を使用したメニュー開発を授業に取り入れ

※「陸前高田産品×調理専門学校　メニュー開発コンテスト」の実施

■「メニュー開発コンテスト」によるマッチング実績　　（平成 25 年 1 月）

（ク）　居酒屋チェーンから「しいたけ」を受注

（ケ）　居酒屋チェーンから「しいたけ・きくらげ」を受注

（コ）　居酒屋チェーンから「きくらげ」を受注

4 陸前高田市への医療支援

（1）岩手県立高田病院への名古屋市立大学病院看護師の派遣

ア　経緯

名古屋市立大学病院では、震災後、被災地への医療救護班をはじめ、医師・看護師等を派遣するとともに、本市の“丸ごと支援”により始まった陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクトでは、就労体験先としての中学生の受け入れや、全行程への看護師の同行を行った。こうした陸前高田市との縁もあり、仮設診療所で診療を再開している岩手県立高田病院へ看護師を派遣し、被災地医療機関への支援を行うとともに、被災地医療を学び、今後想定される大規模災害発生時に備えることとなった。

イ　事業概要

平成 24 年 9 月から 12 月まで、7 名の看護師を 2 週間ずつ岩手県立高田病院へ派遣し、外来業務や病棟業務、訪問診療等の支援を行った。また、高田病院が作成したプログラムにより、被災地医療も学んだ。派遣された看護師が被災地域の仮設病院での看護や、仮設住宅等への訪問診療を経験することで、地域医療における看護の役割を再認識し、災害に対する意識を高めることができた。また、派遣された看護師は、本市から陸前高田市へ“丸ごと支援”により派遣されている職員と同じ宿舎で生活することで、保健業務の情報共有も図られた。

（2）名古屋市立大学看護学部における陸前高田市特別枠の設置

ア　経緯

陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクトにおいて、陸前高田の中学生の多くが就労体験で看護師を希望したため、名古屋市立大学病院で就労体験を行った。その際、病院の規模や充実した設備に生徒が感激し、看護師になる思いを強くしたとの声や、陸前高田市から将来に夢が持てたとの評価をいただいた。

陸前高田市からも、震災復興計画として地域包括医療システムの構築や、地域医療施設の整備に重点的に取り組むことから、地域医療を支える看護師の需要が高く、看護の中核的人材の育成が急務であるとの要請があったため、本市としても名古屋市立大学へ看護学部への就学機会の提供について協力要請を行い、平成 24 年 8 月 31 日に陸前高田市特別枠が設置されることとなった。

イ　事業概要

医療機関も壊滅的な被害を受けた陸前高田市の地域医療を支える看護の中核的人材を育成するため、名古屋市立大学看護学部の推薦入試に陸前高田市特別枠を設置し、修学機会を提供する。

区　　分	概　　要
定　　員	2 名（入学定員 80 名を 2 名増員）
対　　象	出願時点又は東日本大震災発災時（平成 23 年 3 月 11 日）に陸前高田市に住民登録を有し、岩手県気仙地区（陸前高田市、大船渡市及び気仙郡住田町）内の高等学校卒業（見込み）の者
期　　間	平成 25 年度入試～平成 29 年度入試の 5 年間
支援内容	入学検定料及び入学料、4 学年分の授業料を全て免除 名古屋市立大学病院の看護師が入居する宿舎を提供 家賃の一部を名古屋市と名古屋市立大学で負担 名古屋市立大学病院の看護師による生活等へのサポート

5　被災地支援の経験を市民等へ還元していく取り組み

（1）概要

被災地支援で得られた経験を市民等へ還元するため、市民報告会や職員研修等を開催するとともに、本市の震災関連計画等にも反映した。

（2）これまでの実績

ア　市民向け

・市民報告会（平成 24 年 2 月及び 7 月）
・学校報告会（平成 24 年 6 月、11 月及び平成 25 年 2 月）
・港区「防災のつどい」における講演会（平成 24 年 9 月）
・北区「ゆうわ・フェスタ・41」における写真展示（平成 24 年 9 月）
・「歩こう！文化のみち」における写真展示（平成 24 年 11 月）
・市政出前トーク等　（これまでに計 8 回実施）
・公式ウェブサイト、広報なごやにおける支援活動内容の紹介
・東日本大震災追悼イベント「Candle Night Nagoya」（平成 24 年 12 月）

○東日本大震災追悼イベント「Candle Night Nagoya」

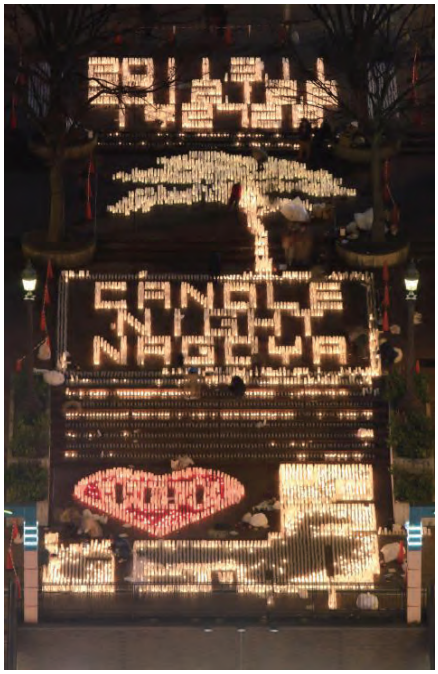
日　時	平成 24 年 12 月 8 日（土）
会　場	名古屋テレビ塔、久屋大通公園もちの木広場
内　容	・約 18,000 本でつくるキャンドルアート ・被災地への応援メッセージ ・被災地パネル展 ・東北産品の飲食・販売 ・音楽ライブ
参加者	約 2,000 人
備　考	本イベントは、Candle Night Nagoya 実行委員会（「ナゴ校」学生委員会）との共催

イベント告知ポスター

市民の皆様から被災地への応援メッセージ

昭和橋中学校による合唱

キャンドル点灯の様子



テレビ塔展望室からの様子

イ　職員向け

・新規採用者研修における被災地域支援活動の紹介（平成 24 年 4 月）

・職員研修「派遣職員報告会」（平成 24 年 6 月）

・職員研修「防災シンポジウム」（平成 24 年 11 月）

ウ　震災関連計画等への反映

陸前高田市“丸ごと支援”から得られた教訓を「名古屋市震災対策基本方針」（平成 23 年 8 月）、「名古屋市業務継続計画（震災編）」（平成 24 年 9 月）、「避難所運営マニュアル」（平成 25 年 2 月）等に反映した。

（3）ネット・モニターアンケートの実施結果

ア　平成 23 年度

本市が実施する陸前高田市への支援活動について、市民がどのように考え、評価しているのか調査し、今後の被災地支援の取り組みの参考にすることを目的に実施した。

調査テーマ	東日本大震災への名古屋市の対応（特に陸前高田市への支援）について
期間	平成 23 年 9 月 9 日（金）～19 日（月）
対象モニター	調査対象 499 人に対して有効回収数 445 人（有効回収率 89.2%）
調査結果	・職員派遣に「賛成」「どちらかといえば賛成」は 9 割超 ・陸前高田市の子ども達を名古屋市へ招待するプロジェクトに「賛成」「どちらかといえば賛成」は 9 割超 ・「今後は陸前高田市に限らず被災した地域を幅広く支援したほうがよい」との回答が約 4 割であり、東日本大震災への継続支援に賛成する回答は 8 割超

イ　平成 24 年度

本市が実施する陸前高田市や仙台市に対する職員派遣などの被災地支援活動について、市民がどのように考え、評価しているのか調査し、今後の被災地支援の参考にすることを目的に実施した。

調査テーマ	東日本大震災被災地域支援活動について
期間	平成 24 年 9 月 28 日（金）～10 月 8 日（月）
対象モニター	調査対象 500 人に対して有効回収数 454 人（有効回収率 90.8%）
調査結果	・陸前高田市と仙台市への職員派遣は、「賛成」「どちらかというと賛成」が 9 割超 ・今後の名古屋市の被災地域への職員派遣について、「今後も陸前高田市と仙台市を支援した方が良い」が 8 割弱 ・市民の被災地への支援の意識について、昨年度と比較し「意識が低下した」が 4 割弱

6 被災者の受け入れ支援

（1）事業概要

東日本大震災では、大きな被害が発生した岩手県・宮城県・福島県等を中心に、被災者の一部が住みなれた地元を離れ、他の地域に避難し、本市にも大勢の被災者が避難した。そのため、本市では、そのような受入被災者に対して市営住宅等の提供、相談窓口等の設置、定期便による情報提供等様々な支援を行った。

（2）本市受入被災者数（平成 25 年 1 月 31 日現在）

区　　分	世 帯 数	人　　数
	世帯	人
市 営 住 宅 等	54	112
県 営 住 宅 等	21	57
そ　の　他	139	307
計	214	476

（注）市営住宅については、入居期間を平成 25 年 3 月 31 日までとしていたが、1 年延長し、平成 26 年 3 月 31 日までとした。

（3）これまでの主な支援実績（平成 25 年 1 月 31 日現在）

所管局	支　援　内　容	実　　績
市　長　室	情報カウンターでの外国人相談（教育相談含む）	5 件
総　務　局	女性のための総合相談	16 件
	女性のための「ほっとスペース」の開設	8 回
財　政　局	税務証明申請に係る手数料の免除	175 件
市 民 経 済 局	住民票の写し等の手数料の免除	652 件
	転出証明書がない場合の転入届	52 件、107 人
	観光施設入場券の進呈	271 世帯、649 人
	ボランティアによる支援 （受入被災者交流会を含む）	市内での活動 855 人 相談 1,498 件
	臨時職員の採用	20 人
環境局	リユース（再使用）家具の提供	121 世帯 、250 個

所管局	支　援　内　容	実　　績
健康福祉局	生活福祉資金等の貸付	16 件
	生活保護	23 件
	介護保険	保険料災害減免等 33 件
	障害福祉サービス、自立支援医療等に関する相談	54 件
	予防接種の申請	209 人
	国民健康保険、後期高齢者医療、国民年金	保険料災害減免等 342 件
子ども青少年局	保育所への入所	17 園、25 人
	妊婦及び乳幼児の健康相談と健康診査等	母子健康手帳交付等 40 件、乳幼児健康診査 51 人
住宅都市局	市営住宅等の提供 （風呂釜、コンロ、毛布、照明器具、エアコンの提供）	入居決定 109 世帯、269 人 （風呂釜 67 個、コンロ 111 個、毛布 227 枚、照明器具 112 個、エアコン 51 台）
緑政土木局	リサイクル自転車の提供	47 台
	東山動植物園への受入被災者の無料招待	2 回 57 人
教育委員会	小学校・中学校・高等学校・幼稚園等への転入学の人数	83 校（園）、124 人
	就学援助（認定件数）	40 件
	学用品の支給	40 件
	ナゴヤドーム開催のプロ野球への受入被災児童・生徒の無料招待	3 回 招待券配布 66 人
交通局	マナカの進呈	271 世帯、457 枚
病院局	市立病院での一部負担金等の免除	53 件

（4）定期便「応援します！被災者の皆さんへ」号

ア　実　績

・平成 23 年 5 月 16 日開始
・原則毎月 1 日、15 日に発行
・愛知県受入被災者登録制度による登録者のうち、希望する方に配付
・全 42 回、延べ 634 件の情報を延べ 4,779 世帯に提供　（平成 25 年 1 月 31 日現在）

イ　主な情報提供内容

（ア）本市からの支援情報

・「東日本大震災の被災により名古屋市へ避難された方へ」のチラシ
・東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごやからのお知らせ
・女性のための『ほっとスペース 2012』の開催案内
・臨時職員採用情報
・リユース家具の提供

（イ）県からの支援情報

・愛知県被災者支援センターニュース
・福島県の情報提供

（ウ）民間からの支援情報

・愛知県弁護士会による相談事業に係る情報提供
・野球観戦（ナゴヤドーム）の無料招待
・お笑いチャリティーショー無料招待
・夏休みファミリーミュージカル無料招待
・コンサート無料招待
・フットサル観戦の無料招待

（エ）地元新聞の写し

・福島民報（福島県）
・河北新報（宮城県）
・岩手日報（岩手県）

（5）「よくあるお問い合わせ事例集～東日本大震災の被災により名古屋市へ避難された方へ～」（平成25年 1月作成・配付）

ア　目的

東日本大震災の被災により名古屋市へ避難された方から、これまでに寄せられた住まいや就労・就学など生活全般に関する相談をまとめ、今後の生活の参考としていただくために「よくあるお問い合わせ事例集」として発行

なお、年度末の時期は、引っ越しに伴う住まいに関する相談が増えることが想定されるため、年度末に配付

イ　内容

居住、転出入等の手続き、交流等、就学等、就労等、生活全般について、Ｑ＆Ａ形式で内容を掲載

7　その他の陸前高田市への支援

（1）「復興応援自転車」の提供

陸前高田市教育委員会から、自転車の提供について要請があったため、「復興応援自転車」として、本市から陸前高田市にリサイクル自転車を提供した。

年　月　日	台数	目　　的
平成 23 年 5 月 25 日	台 129	被災した中学生が使用するため
平成 24 年 3 月 22 日	20	高田小学校で安全指導に使用するため
計	149	

（2）陸前高田市職員の健康診断の実施

本市病院局及び名古屋市立大学の医師等が、陸前高田市職員一人ひとりの健康状態を確認し、自らの健康管理に役立てていただくとともに、引き続き安定的に公務に従事していただくため、本市病院局及び名古屋市立大学病院の医師・看護士等が陸前高田市の全職員を対象に健康診断を実施した。

区　分	内　　容
実施内容	問診及び検査 （身長、体重、血圧、尿、血液、心電図）
受診職員	陸前高田市の職員 328 名（非常勤・臨時職員を含む。他都市等からの派遣職員は除く。）
実施時期	平成 23 年 7 月 26 日（火）～29 日（金）
延べ派遣人数	18 名

陸前高田市職員の健康診断を行う名古屋市職員

（３）津波浸水地域に対する害虫駆除及び消毒

長部地区（漁港周辺）を中心に、瓦礫に交ざった魚の死骸からハエ等の害虫が発生しているため駆除、消毒等の必要な対策を実施した。

区　　分	内　　容
実　施　内　容	ハエ等の害虫駆除及び消毒
実　施　方　法	生活衛生センターに配備された薬剤散布車により、ハエの発生場所に対して殺虫剤等を散布する。
実　施　時　期	平成 23 年 7 月 27 日（水）～8 月 2 日（火）
延べ派遣人数	6 名

（４）在宅被災者に対する健康生活調査

現地からの要請に基づき、ひきこもりや生活不活発病、精神不安、気温の低下による循環器疾患発症の恐れがある方を把握し、きめ細かく対応することを目的に、各自治体、関係団体と連携して陸前高田市内の個人宅に避難している被災者の状況把握を実施した。

区　　分	内　　容
実　施　内　容	血圧測定、健康生活調査（必要時、うつ状態のチェックを実施）、アルコール摂取状況を家庭訪問により実施
対　　象　　者	陸前高田市内の個人宅避難者
実　施　時　期	平成 23 年 11 月 8 日（火）～23 日（水）
延べ派遣人数	6 名